

学校関係者評価書

大阪市立阪南中学校
学 校 協 議 会

1. 全体のまとめ

- ・教職員全員における自己評価は、意義のあるものである。
- ・保護者、生徒アンケート（無作為抽出）による評価も含め、学校評価における取り組みは年々充実している。
- ・さまざまな分野において、昨年度の反省をふまえた改善が図られたことは評価できる。しかし、生徒の学校に対する評価が他の評価に比べ低い値である。その原因を究明して、改善を図っていくべきである。
- ・アンケートの結果から、学校の真剣な取り組みの姿勢が感じられた。

2. 項目別評価について

学校教育目標	A. 教育課程・学習指導について
「安心・快適な学校生活」や「落ち着いた学校生活」の項目は、教職員・保護者ともに評価が高く、学校の状態が安定している証拠である。 清掃活動では、生徒の真剣な取り組み姿勢が弱いように感じる。 ほとんどの項目で評価が上がっている。これは、教職員の努力の結果と言える。	教職員の自己評価において、全体的に上昇していることは評価できる。しかし、わかりやすい授業といった点では、なお一層の工夫が必要である。 視聴覚教材の使用については、なかなか有効活用できていないようである。施設と学校規模の中で、克服していつてほしい。
B. 生徒指導の充実をはかって	C. 進路・将来のことについて
公共物・私物への取り扱いの項目では、昨年度の問題点が克服されている。 設問内容の見直しで、生徒個々の実態把握ができにくくなった。	教職員と生徒の間で、進路指導に対する取り組み方や捉え方に差がある。2年生で実施する職場体験や高校受験等に対する指導で、目的意識等を高めていくことを期待する。
D. 安心・安全で快適な学校生活を送るために	E. 健康な生活を送るために
過去の大震災での経験を活かし、防災に関して、地域との連携を視野に入れて取り組んでほしい。	回答から、問題を抱えているにもかかわらず、なかなか学校の先生に相談できていないことは残念である。生徒がいつでも相談できるような環境の整備を図ってほしい。 現在の社会問題でもある違法薬物等への指導にも、今後取り組んでほしい。
F. 人権教育について	G. 教員の資質向上をはかって
生徒は、概ね人権教育の意義は理解しているように感じられる。しかし、身近なくすのき学級（特別支援学級）に関しての理解が不十分な面も見られ、さらに交流を深めていく必要がある。	日々の業務に追われながらも、昨年度の自己評価より高い数字が出ているのは、教職員が努力した結果であろう。
H. 保護者・地域住民等との連携について	I. 学校行事・部活動・生徒会(学級)活動について
P T Aと学校の連携が評価されているのは、喜ばしいことである。また、小中・中高の連携も昨年度より充実してきたのはありがたいことである。 学校協議会の役割を明確にする必要がある。	部活動は、外部から見ても努力しているように感じる。教職員も生徒も熱心に取り組み、保護者もそう感じている。しかし、生徒会や委員会などの活動では、一部の生徒は積極的に参加し充実感を持っているが、多くの生徒は距離をおいて冷めているように感じられる。全体の活動とってほしい。

3. 今後の改善方策について

- ・教職員の一定の努力が見られる。この状態を持続して、ひとつひとつ前向きに取り組んでほしい。
- ・生徒が過ごし、保護者が暮らし、そして先生方が勤務する学校の存在する地域に興味を持ち、閉鎖的にならずに、地域との連携を深めていつてほしい。
- ・学校の現状をきちんと把握できるような学校評価にしていかなければならない。そのために、学校協議会のあり方を検討し、P D C Aのサイクルがうまく機能するように見直していかなければならない。